

## U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

## 米国 インフレ懸念が一段と後退(05年6月生産者物価)

発表日: 05年7月15日(金)

～生産者段階での価格上昇圧力は徐々に緩和～

(No. UI - 066)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

生産者物価 (Producer Price Indexes)

	最終財		コア		エネルギー	中間財		原材料	コア		<参考> 輸入物価	WTI
04/06	0.1	(+4.0)	+0.3	(+1.7)	0.8	+0.4	+0.3	+0.8	0.4	+0.1	38.6	
04/07	+0.1	(+3.8)	0.1	(+1.4)	+2.5	+0.6	+0.5	+0.1	+10.9	+0.0	40.7	
04/08	+0.1	(+3.3)	+0.3	(+1.5)	+0.3	+1.0	+1.0	0.3	+2.5	+0.3	44.9	
04/09	+0.3	(+3.3)	+0.3	(+1.7)	0.2	+0.3	+0.8	4.5	1.3	+0.1	45.8	
04/10	+1.5	(+4.5)	+0.3	(+1.8)	+5.7	+1.0	+0.5	+4.3	+4.3	0.1	53.2	
04/11	+0.7	(+5.0)	+0.3	(+2.0)	+2.7	+0.8	+0.3	+7.6	+3.1	+0.9	48.5	
04/12	0.3	(+4.2)	+0.2	(+2.3)	2.4	+0.1	+0.4	3.1	1.4	+0.4	43.3	
05/01	+0.1	(+4.1)	+0.7	(+2.6)	1.0	+0.3	+0.7	2.0	2.5	+0.3	46.9	
05/02	+0.4	(+4.7)	0.1	(+2.6)	+1.8	+0.6	+0.5	1.0	2.9	+0.1	48.1	
05/03	+0.7	(+4.9)	+0.2	(+2.6)	+3.0	+1.0	+0.3	+4.1	+0.6	+0.3	54.6	
05/04	+0.6	(+4.8)	+0.3	(+2.6)	+2.1	+0.8	+0.2	+2.7	+0.8	+0.4	53.0	
05/05	0.6	(+3.5)	+0.1	(+2.6)	3.5	0.7	0.3	2.0	3.6	0.2	50.0	
05/06	+0.0	(+3.6)	0.1	(+2.2)	+2.0	+0.1	0.2	3.3	4.3	0.4	56.4	

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、( )内は前年同月比 (未季調)。

### 市場予想に反しコアが前月比 0.1% 下落

05年6月の生産者物価(最終財)は、食品価格の下落によって前月比0.0%と市場予想の同+0.2%を下回った。一方、変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、資本財、自動車を含んだ消費財が下落したことにより同 0.1%と市場予想の同+0.1%に反し下落しており、生産者段階での物価上昇圧力が弱まっていることが示された。

### 上昇圧力は鈍化傾向を辿っている

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、中間財(コア)が+12%(5月同+38%)と鈍化傾向を辿っており遅れて影響を受ける最終財(コア)が同+16%(同+23%)と3ヵ月連続で鈍化したことから、生産者段階での物価上昇圧力は弱まっている。

### 資本財、消費財コアは共に前月から下落

最終財の 카테고리別の動向をみると、食品関連では肉類が軒並み下落したため、食品価格は前月比 1.1%(5月同 0.3%)とマイナス幅が拡大した。一方、エネルギーは前月比+20%(5月同 3.5%)とプラスに転じた。天然ガスが同 32%(同 0.9%)とマイナス幅を拡大したものの、ガソリンが同+8.7%(同 9.9%)、ヒートングオイルが同+13.5%(同 7.8%)と上昇に転じた。

消費財(エネルギー・食料品を除く)では、乗用車が前月比 1.0%(5月同 0.2%)とマイナス幅を拡大した。加えて、家庭用品が同 0.1%、靴が同 0.1%、家庭用電気機器が同 0.2%、家庭用ガラス製品が同 0.2%、定期発行誌が同 0.5%、玩具・ゲームが同 0.1%、スポーツ用品が同 0.1%、宝石・プラチナ・金が同 0.3%と下落に転じたことから、消費財(エネルギー・食料品を除く)は同 0.1%(同+0.1%)とマイナスに転じた。

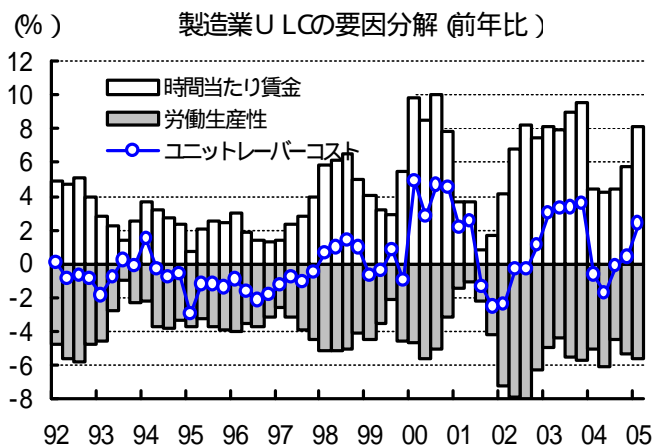
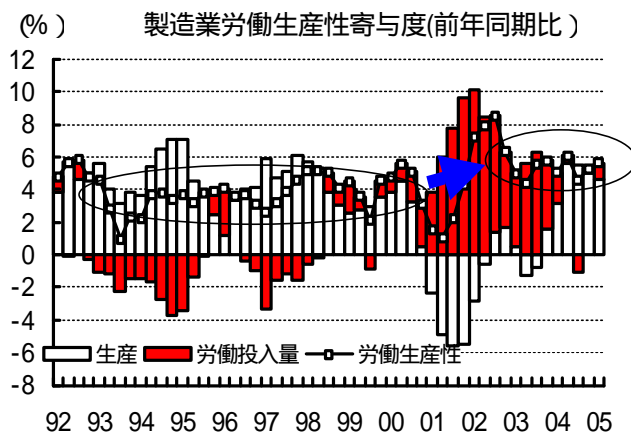
他方、設備投資の堅調が続く資本財では、品質向上や値引きが続くコンピューターが反動もあり前月比 0.8%(5月同 4.8%)と下落幅が縮小した。一方で、建設機械・機器が前月比 0.4%(5月同+2.2%)、産業材溶接機械が同 0.9%(同+0.2%)とマイナスに転じた。さらに、軽トラックが同 1.7%(同 0.9%)、繊維機械が同 0.4%(同 0.2%)とマイナス幅が拡大した。全体で

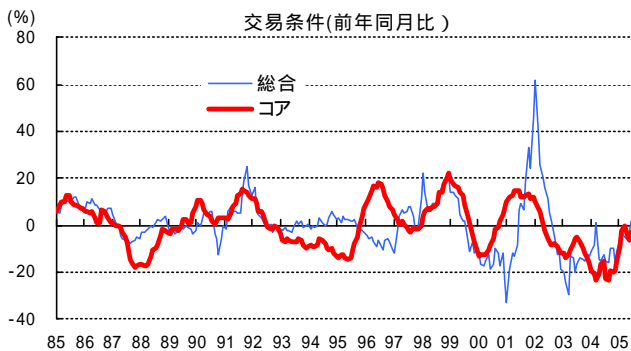
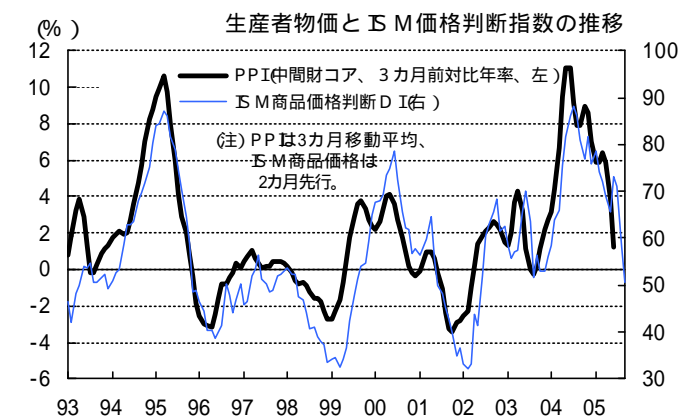
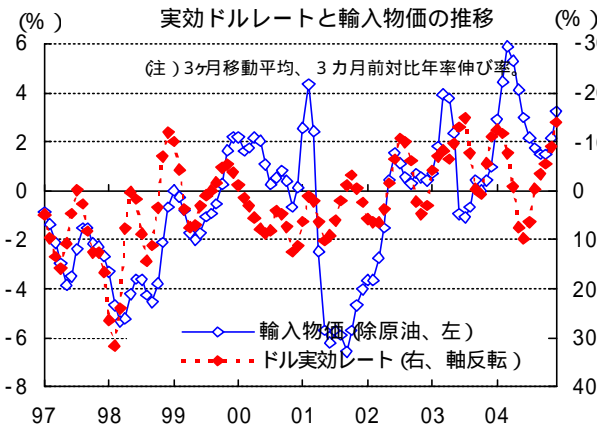
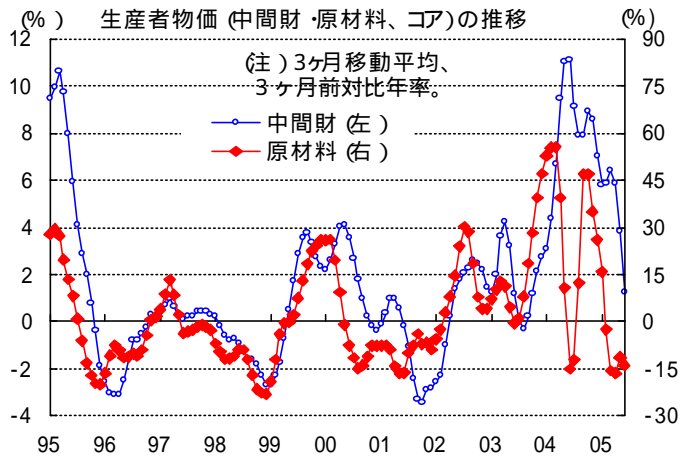
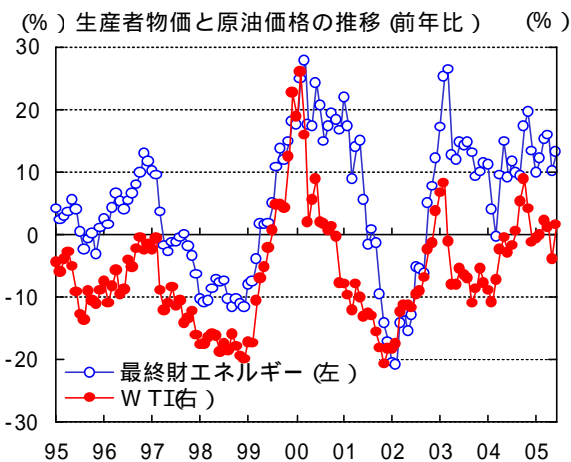
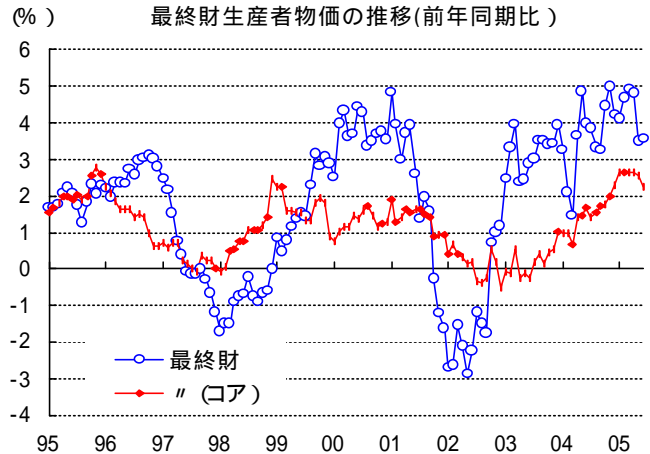
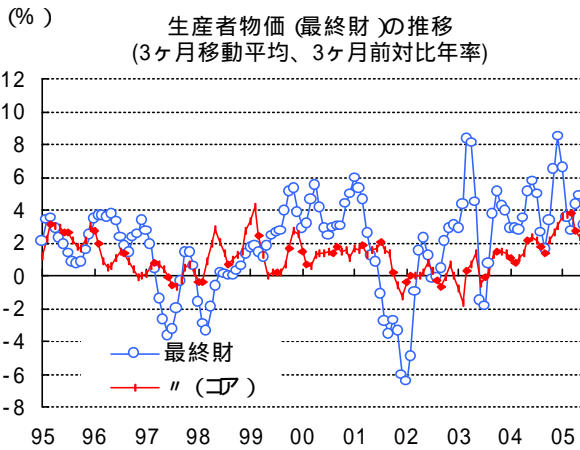
は同 0.2% (同 +0.1%) と下落した。

### 生産者物価(最終財)コアは前年比で鈍化する見込み

今後に関しては、川上でのインフレ圧力を示す原材料(コア)が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で6月に139%(5月113%)と下落幅が拡大したこと、中間財(コア)に2ヵ月程度先行する仕入価格指数(ISM製造業景気指数)が2004年4月をピークに低下傾向を辿っていることから、目先川上段階でのインフレ圧力はピーク時から徐々に弱まっているとみられる。

今後、世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念を背景にエネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続き、商品価格も高止まりする可能性がある。このため、原材料価格(コア)も再び上昇に転じると見込まれる。しかし、製造業では数量効果、情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられる。さらに、前年比では物価押し上げ圧力が年末にかけて限界的には縮小することから、生産者物価(最終財)コアの上昇ペースは前年比で鈍化する公算が大きい。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。